

研究課題名	手指基節骨骨折における各内固定材に対する 早期可動域訓練の効果
実施責任者	所属・職名：名古屋掖済会病院・リハビリテーション部
	氏名：加藤雅大
研究の概要	<p>手指基節骨骨折では3種類の固定方法が使用されることが多いです。リハビリは術後早期から行うことで良好な手指の動きが得られると報告されています。しかし、3種類の固定方法ごとで術後早期のリハビリの効果は明らかになっていません。</p> <p>そこで今回、該当する患者様のデータを調査して術後早期からリハビリを行うことの効果について検討します。</p>
対象となる個人情報	対象患者様における手指のレントゲン（骨折部位など）・性別・年齢・手指の動きを調査します。
実施の期間	西暦 2012年 1月 1日から
	西暦 2020年 5月 31日まで
研究対象	当院にて手指基節骨骨折と診断され、3種類の固定法の内1つで手術を行った方を対象とします。